

Title	大阪大学低温センターだより No.45 裏表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 45
Issue Date	1984-01
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/20940">http://hdl.handle.net/11094/20940</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 編 集 後 記

新年おめでとうございます。

編集委員になったばかりで何もわからず、諸先輩方が「低温に限らず広く阪大オリジナルを」という思い切った編集方針でテキパキ編集されるのを黙って見ているうち編集後記を書くはめになってしまいました。

さて、本号は今春、停年退官される成田先生より「さらば液体ヘリウムとのおつき合い」という題目で巻頭言を頂きました。低温での物理現象はなるほど美しいが、実用に乏しく代償が高価につくゆえ、低温を使わない物理実験を真面目に考えてみてはという、低温に携わる人にとっては少々耳のいたいお話です。確かに、ヘリウムデュワーの底にかぎらず自然は低温で透明感のある美の世界を現出します。私も毎年冬になりますと氷雪の世界を求めて山に出かけておりましたが、数年前、穂高で遭難し、凍傷で2ヶ月程入院、手痛い代償を支払わされました。その時成田先生にたいへんお叱りを受けたのですが、その後も冬になりますとついつい「低温の世界」に誘われて山に出かけたものです。最近、年とともに冬山に行くのはおっくうになりましたが、遠赤外分光に携わる者として低温実験の方はなかなか縁が切れそうにありません……。皆様方はいかがですか？

ところで、本号では巻頭言のほか、「SQUIDを用いたNMR」、「重イオン核反応における生成核の偏極」、「FRPデュワーの開発」をお送りします。日頃、隣りの研究室でも何をやっているのか良く分からない私達です。関連した分野の人はもちろん、阪大のコミュニケーション雑誌としても広く楽しんで頂けるものと思います。（室 清文）

大阪大学低温センターだより 第45号

昭和59年1月発行

編集責任者 長谷田泰一郎

発行者 大阪大学低温センター

吹田分室 大阪府吹田市山田丘2番1号

電話(06) 877-5111 内線 4105

豊中分室 大阪府豊中市待兼山町1番1号

電話(06) 844-1151 内線 2162

印刷所 阪東印刷紙器工業所

大阪市福島区玉川3丁目6番4号

電話(06) 443-0936 (代表)

# 目 次

No. 45

## 巻 頭 言

さらば、液体ヘリウムとのおつき合い ..... 成 田 信一郎 ..... 1

## 研究ノート

SQUID を用いた NMR ..... 理 学 部 赤 木 与 志 郎 ..... 3  
中 村 亘 男

重イオン核反応における

生成核の偏極 ..... 教 養 部 高 橋 憲 明 ..... 6

## 低温中級技術シリーズ 13

FRP デュワーの開発 ..... 産 業 科 学 研 究 所 西 嶋 茂 宏 ..... 11  
岡 田 東 一

表 紙 :  $^{12}\text{B}$  イオンの核スピン偏極を測定するための  
実験装置の見取図 (本文 6 ページ)